

ポラス 第10回「学生デザインコンペ」 最優秀賞は早稲田大学 大学院 黒澤・木嶋氏

ポラスグループが開催している「学生・建築デザインコンペティション」は今年で10回目となる。その二次審査（最終審査）が7月3日に行われた。

で、登録件数は566件、応募作品は362件だった。二次審査会の審査委員は、審査委員長が西沢立衛（横浜国立大学大学院Y-I GSA教授、審査委員が今井公太郎（東京大学工学部建築研究所教授、原田真宏（芝浦工業大学教授、

中川エリカ氏（中川エリカ建築設計事務所）、野村社一郎氏（ポラス社内審査委員）。二次審査の結果、最優秀賞は、早稲田大学大学院の黒澤優太氏と法政大学大学院の木嶋真子氏の「木工と暮らす 木工ヤードのある家」に決定した。

優秀賞は、東京藝術大学大学院のZHANG SHI LIN氏（中国国籍）とTIAN ZHANG CHEN氏（中国国籍）の「サルの家 多義的な楽しい生活」。入選は、慶應義塾大学

大学院の平野和代氏の「今日は3LDK、明日からは4LDK」暮らしに合わせて変化する住戸のかたち。武蔵野大学の西村博佑氏と小原廣之進氏の「家育て まち育て」。浅野工学専門学校の谷米匠太氏の「屋根裏につつまれて」。大阪公立大学大学院の松村真衣氏の「木を膨らます櫓舎」。賞金は最優秀賞が1点50万円、優秀賞が1点20万円、入選が4点各10万円。

表彰後の講評で、審査委員長西沢立衛氏は次のように語った。「今回はいろいろ考えさせられるプレゼンテーションだった。ひとつは、出題を超えようとする提案が多かった。出題は「快適な木造の家」だが、それを越える世界観を提示したという感覚があった。当然のように自然の形で一体化している。時代の変化なのか、感受性の変化なのか、コンペの蓄積なのか。何だっけ？ 壁で仕切ればよいわけではなく、建築技術で関係をつくる。ダイニング、リビングをつくれば

空間ができるわけではなく、そこにはそれとふさわしい関係性をつくる。今回はちゃんと関係性がつくれたと思うものが多かった。自然のつながり、関係性をつくることに成功したと思っている」と入選作品の講評を語った。



最優秀賞受賞の（左より）木嶋真子氏、黒澤優太氏



最優秀賞の「木工と暮らす 木工ヤードのある家」の模型